

子どもの貧困対策実践交流会 2025

子どもの貧困対策・居場所づくり これまでとこれから
～子どもがひとりでも安心してごはんを食べられる居場所を「自己責任」とせず、政治・行政は食と教育・生活の直接保障を～

2025.11.9(日)主催：「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワーク

だんだん 近藤博子

今日お話ししたいこと

- 1・だんだんについて
- 2・こども食堂のこと
- 3・見てきたこと
- 4・これからのこと・(他団体とのコラボ)

「気まぐれ八百屋だんだん」という場所

東京都大田区東矢口1-17-9 (JR蒲田駅から池上線で一つ目の蓮沼駅下車徒歩2分)

元居酒屋の空き店舗を使用



「だんだん」のあゆみ 1

●野菜配達・販売(2008年)

自然に買い物客のたまり場になっていた。個人商店ってみんなの場所としての重要な機能を果たしていたのではな
いかと気づくことになった



みんなが抱えている悩みや相談が聞こえてきた。（野菜があることで話しやすい環境になっていた）ここでもすでに「食」がつなぎ役

- ・孤立
- ・子育て
- ・やってみたい企画
- ・やってほしいこと

様々なことが集まってきた

悩みを聞いたり、場所を提供したり、人を紹介したりニーズに合わせていいろいろ考えてやってみることって大事！！

気軽に立ち寄れて
お喋りしたり、悩みを
話せたりする場所つ
て大事なのね。



「だんだん」のあゆみ 2

- 高校生の娘が勉強につまずいたことから
ワンコイン寺子屋開始(2009年)



アーティストさんと作品についてディスカッション

寺子屋で出している**おやつ（うどんなど）**が、その日の夕食になっていた子どもがいた。おやつがあることで、子どもと大人の距離が近くなり、なごみ、会話も弾み、**楽しい交流の場になっていた**。ひとり親家庭の問題、引きこもりの子どもの問題等、みんなの悩み事を吐き出す場にもなっていた。



皆で食べるおやつが心を開く



やりたい勉強をそれぞれがやっている

寺子屋以外の活動の様子



だんだん寄席



包丁研ぎ



大人も子どもも一緒にごちゃまぜの中で行います。その中で、それぞれに気づいたり、学んだりしています。自然にミニ社会が出来上がっていました。



こども笑顔みーていんぐ



弁当作り教室



こども天国



寺子屋で高齢者に教える



食堂の手伝いをする・異年齢交流



ケーキ作りで異年齢交流

子どもは成長。
見守られる側から見守る側に。



書初めて異年齢交流

多世代がごちゃ混ぜに
関わることって大事なのね



だんだんワンコインこども食堂のプロフィール

2012

「こども食堂」スタート

第1、3水曜日 17:30-20:00／子ども 300円、大人500円

2014

毎週木曜日開催に変更

2015

「第1回こども食堂サミット」に参加

2016

子どもは100円に変更

2017

「だんだんワンコインこども食堂」に変更

(コインなら何でもいい。1円、5円、10円、50円、100円、ゲームのコイン、外国のコインでもok)

2025年3月に「こども食堂」というのれんを宝箱にしまうと宣言し現在に至る

ボランティア
スタッフ

スタート時

4人

調理は、近藤。他は、
仕事帰りに手伝う条件



現在

8人

大人 6人
大学生 1人
高校生 ?人
社会人 (OB) 1人

大家族の食卓



作り手も食べる方もみんな一緒。ワイワイガヤガヤでまるで大家族の食卓です。一人っ子も、ここに来れば、兄弟姉妹ができます。赤ちゃんは、みんなでみます。お母さんは、安心して温かいご飯を食べられ、子育ての悩み相談もできます。先輩ママとの交流もできます。



料理教室

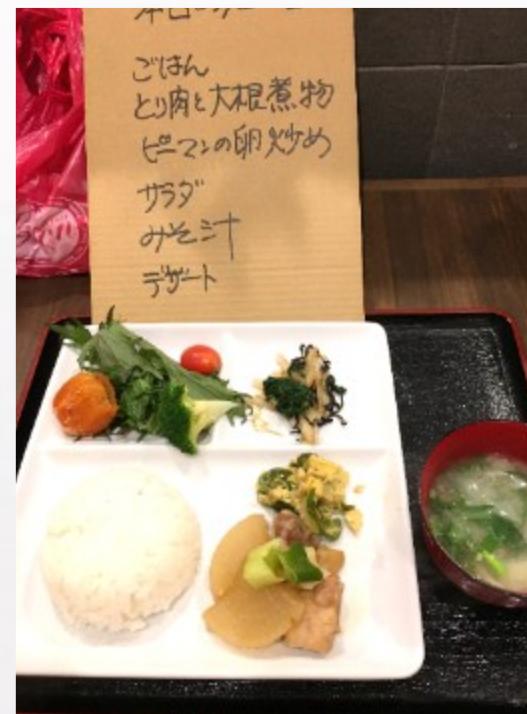


食を通じて、地域の方とのコミュニケーションが生まれます。一緒に食べながら時々食べ方についてアドバイスを受けたりすることもあります。地域の大人にとっても子どもの存在を意識するきっかけになります



新型コロナウイルス拡大で通常のこども食堂の開催ができなくなつた

- ・ 長期休校対策のため、どんぶり弁当ランチ対応を毎日することにした
- ・ 「今日は、カップラーメンじゃなくて嬉しいね」と言いながらお弁当を持ち帰る子どもがいた。
- ・ 給食が始まってからは、毎週木曜日の晩御飯をお弁当対応で継続している



新たなつながりと取り組み

- ・ 子どもの生活応援課から就学援助家庭に「お弁当対応」のお知らせを送ってもらったことで、困難を抱える家庭とのつながりが増えた
- ・ 予約をSNSでもらうことにして連絡先を知れて、食材のおすそ分けのお知らせができ、必要な家庭に食材を渡すことも可能になった。現在もおすそ分けを行っている。
- ・ オススメの品物は、様々なものがあり、団体ごとに違う。乾物が多いので、お菓子類も多い。お米を炊くよりもパックご飯を希望するお母さんもいる。野菜などをおすそ分けをしてもお母さんが作れないと、使い切れない家庭もある。



保護者のみなさんにヒアリングをしました！

子どもの勉強を見てやれない。受験が心配

仕事を休めないので、子どもは野放し状態

自営業なので収入が激減し、賃貸料やローンが払えなくなる不安がある

外で遊んだり、部活もできないので、子ども達の体力の低下が心配

収入が減っているのに、食費はどんどん出していく

友達に会えない不安で、子ども達が精神的に不安定になってきた

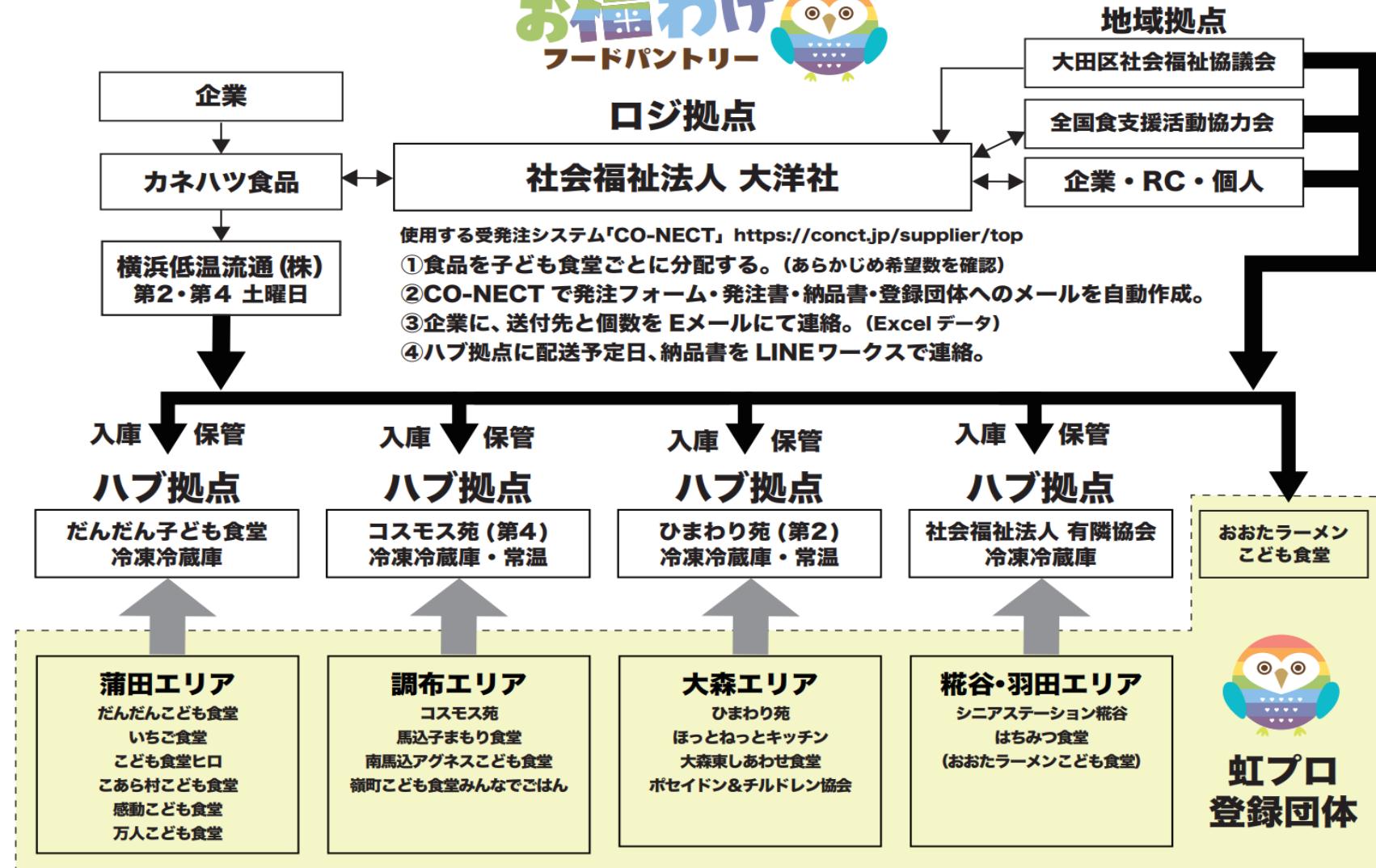
ネット環境もパソコンもプリンターもない

ストレス解消できない

家で仕事をしていてもお昼ご飯を作れるわけではない



子ども虹の架け橋プロジェクト



社会の中で「食」は「命」をつなぎ「人」をつなぐ「接着剤」



おばあ
ちゃんち
感覚



安心
できる



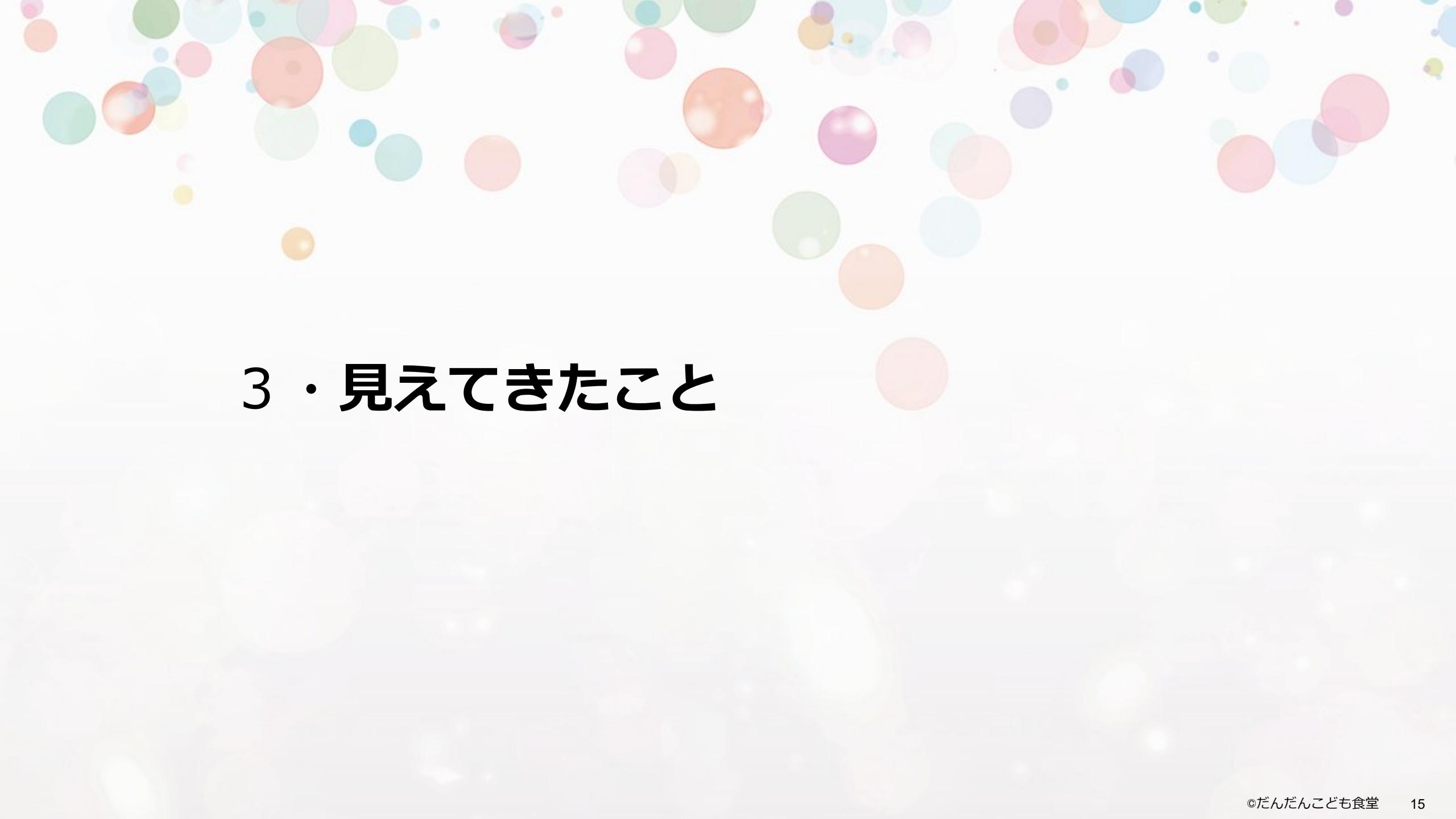
みんなのほっとできる場になる



文化が
繋がる

第二の
我が家





3・見てきたこと

目の前の人を大事にすることの大切さに気が付いた

- ・コロナ禍を経験したことでの人の関りに変化が起った
- ・「本当に困っている人」は目の前にいる
- ・目の前の人から全てが始まる
- ・「食」は、人ととの接着剤



思いを行動にする

おせっかい（節度ある介入）
も大事

こんな子の話を聞い
たんですけど・・・



- ・自分たちにできることは、出来る人に頼る
- ・頼ることで、温かい共感の輪が広がる

現状と課題

現
状

● こども食堂 =

気軽に立ち寄りやすい場所
困りごとが集まりやすい場所

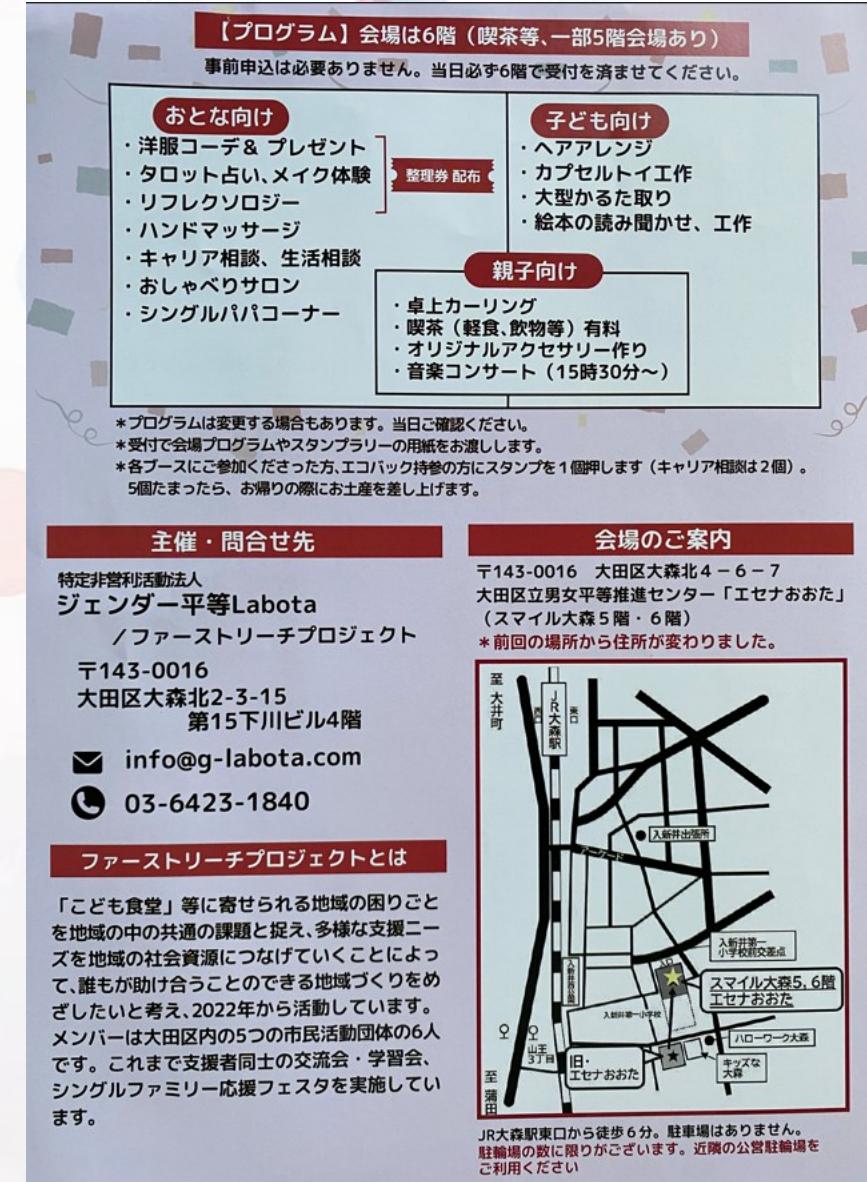


コロナ禍もコロナ後も困りごとを抱える人は増え、
悩みも複雑化している。

課
題

困りごとを抱えた方に寄り添い、伴走するため、
支援者同士の連携が必要。継続のために支援
者も疲弊してきた。

支援者同士のスキルアップとネットワーク作りをしながら当事者の自立とエンパワメントにつなげる活動を行うための任意団体（異なる活動をしている5団体と一緒に）ファーストリーチプロジェクトを立ち上げ活動をし、シングルファミリー応援フェスタを開催。このファーストリーチの取り組みは、重層的支援体制整備事業にもかかわる活動として行政からも注目して頂き、シングルファミリー応援フェスタは、一団体だけでは成しえないことをつながりの中で可能にした活動としても注目できることだと確信しています。これからは、単に「こども食堂」という活動者同士だけではない、繋がりづくりが重要になってくると考えます。



今、できること、やっていること

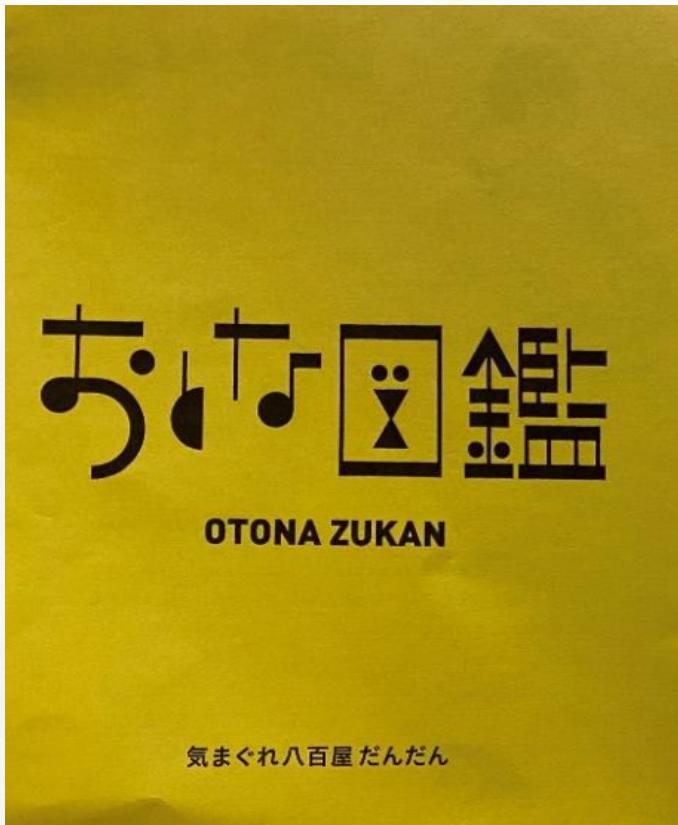
- 1・ひとり親家庭へのお弁当と食材の提供
- 2・両親揃っていても困難を抱えている家庭へのお弁当と食材の提供
- 3・生活保護家庭へのお弁当と食材の提供
- 4・ヤングケアラーだと思われる家庭へのお弁当と食材の提供
- 5・いろいろな相談に対しての対応
- 6・自分でご飯を作ることができるような力を身に付けるお手伝いをする
- 7・いろいろな場面で、子ども達に声をかける（挨拶・こども食堂の現場での声掛けなど）
- 8・学校教育の現場に地域として関わっていき、子ども達との会話を心がける
- 9・子ども達からの声に応えて、やれることを企画する
 - ・「なんちゃって海の家」「学校に行きたくない時café」「料理教室」「ボードゲームcafé」などなど

たまたま出会うケースも多くありますが、民生委員さん、行政の保健師、生活福祉課の担当者からの紹介や相談が入り、関りが始まることも多くなってきました。

4・これからのこと・他団体とのコラボ企画について

- 1・大人図鑑
- 2・こども天国
- 3・防災教室
- 4・産前産後保健室（初めてさんのお灸教室）
- 5・お金の勉強会
- 6・絵本の読み聞かせ
- 7・こども相談室
- 8・寺子屋
- 9・ワールドピースゲームの開催
- 10・マルシェ
- 11・ファーストストリーチの立ち上げ・シングルファミリー応援フェスタ・ソルカフェ
- 12・小学校での夏休み料理教室、工作教室
- 13・就職応援スキルアップ講座
- 14・町会、自治会、商店会などとの連携
- 15・行政・社協・学校・スクールソーシャルワーカーとの連携
- 16・おやじの会・PTA(PTC)・子ども支援団体との連携
- 17・こども食堂連絡会のメンバーとの連携
- 18・企業との連携
- など

初めは、大人の想いでスタートした企画も参加しながら、参画へと誘い、ついには、学生が中心となって動き出した。今は、近所の小学校で大学生と大人たちと子ども達の関りも始まりました。自分の生き方に自信が持てるよう、自己肯定感を持つてゐるよなお手伝いを始めています。



「おとな図鑑」のはじまりから、続けるなかで感じたこと、これからに伝えたいこと、草を立てて『おとな図鑑』をつくってまた1人が話しかけました。

「あらためて考える
『おとな図鑑』つて
何だろう？」

近藤博子 真鍋太隆 永岡大輔

著者: 近藤博子
監修: ブランティア
アーティスト: 永岡大輔

「いまの君の今までいい」
伝えらる人と場所が必要

本編「おとな図鑑」ができたきっかけは、だんだん! 来ていたお客様が見ていた黒葉ガイドブック。それまでの黒葉の収入や料亭営業がグラフになっていて、ダメな状態みたいだった。笑かせたら、此事についてこの本で何がわかる? と、すごく興ったから。近藤さんにそのことを語らせてもらいました。

近藤 博子さんは、アーティストの仕事について学校で語ったら、「それで食べているの?」と質問された時もしてしまいましたね。でも、わたしとしては、多くの人が豊富するような「届ける仕事」以外でもいい、と思っているんですよ。
だから、歌かれた歌とは違う歌を歌っている大人たちの話を、これまでの「おとな図鑑」で聞くことができるには、街の中であまり見かけない仕事をしている人たちの話。彼らは、聞いたことない方も嬉しいだけではなく、自分が歌を歌ったりしたとしてもちろんOKです。
自分の歌を歌んで、夢中になって、元気で歌う楽しそうな姿には、聞いているだけで元気にさせられるから不思議です。

「失敗」や「苦心」というのは、單なる結果。
そこにある意味があるのかは、各自にしかわからぬことです。
失敗や苦心の中にある自分だけの世界を見出したときのこと。
『おとな図鑑』に来てくれる大人は、教えてくれるはずです。

井本コリコ仁
吉木義和
アダム・ジョン・ジョンソン
永岡大輔
吉原聖太・渡邊重之助・宮本雅士ほか

「おとな図鑑」をひらく
「おとな図鑑」をつくる人たち
ボランティアチーム

「おとな図鑑」をつくる人たち
ボランティアチーム

©だんだんこども食堂 22

ワールドピースゲームというシュミレーションゲームを学校の授業で開催してもらうことが出来、協力をしての達成感を味わい、自己肯定感を少しずつ取り戻していったようだった。不登校気味の子どももこの時間だけは、登校するようになっていた。教育の現場に取り入れてもらいたいものの一つである。

◆対象年齢：小学4年生～高校生

◆人数：25名～35名

◆所要時間：15～20時間
(3時間×5日間、週1回2時間×8週など)

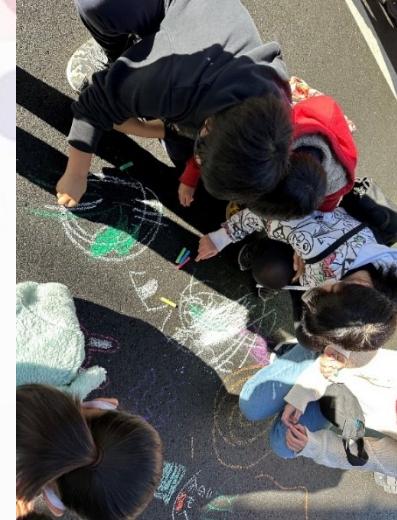
◆仮想世界を現した4層（宇宙、空、地上、海底）のタワーを使用

◆参加者は4つの国、国連、世界銀行、武器商社などのチームに分かれ、15時間～で全ての課題解決を目指す



©World Peace Game P

こども天国(道路に落書きイベント)



若者のためのお金の勉強会



他団体とのコラボ企画

防災教室



国勢調査グッズの リユース教室



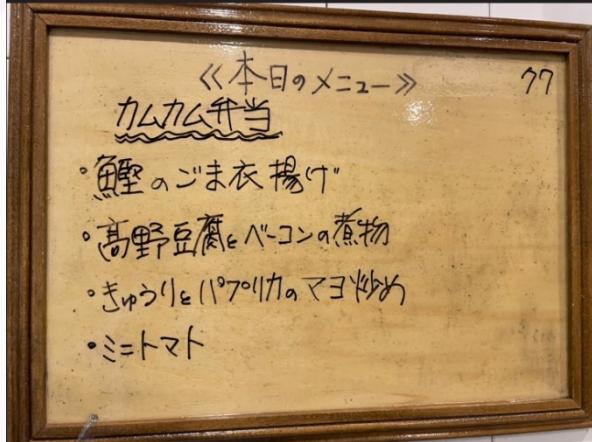
産前産後保健室～はじめてのお灸教室～





歯科大学とのコラボ企画 カムカム弁当

歯科医師と歯科衛生士、管理栄養士のコラボによる、噛む力の再認識と行動変容を考えるプロジェクトに参加してもらう。近所の小学校の給食にも関り始めた



だんだんの外での活動 1～点から線へ、線から面へ～

こども笑顔 ミーティング

こどもとその背景を理解し、動き出す大人を増やし、ネットワークを広げる活動

自分から出向いて
いかなければね！



小学校・児童館との 連携

- ・ サマースクールにて料理教室開催(小学校)
- ・ 地域教育連絡協議会委員に(小学校)
- ・ 大人図鑑
- ・ ワールドピースゲーム
- ・ すくすくネット会委員(児童館)

行政への働きかけ

- ・ 支援の輪プロジェクトの実行委員
- ・ 母子保健推進会議委員
- ・ ファーストストーリーチプロジェクトとして提案(シングルファミリー応援フェスタ・研修など)

だんだんの外での活動 2～点から線へ、線から面へ～

歯科の活動

- ・保育園のブラッシングボランティア
- ・障がい者施設の歯科検診への参加
- ・休日診療への参加
- ・保健所のお仕事のお手伝い
→口の中の状態は発見の場に



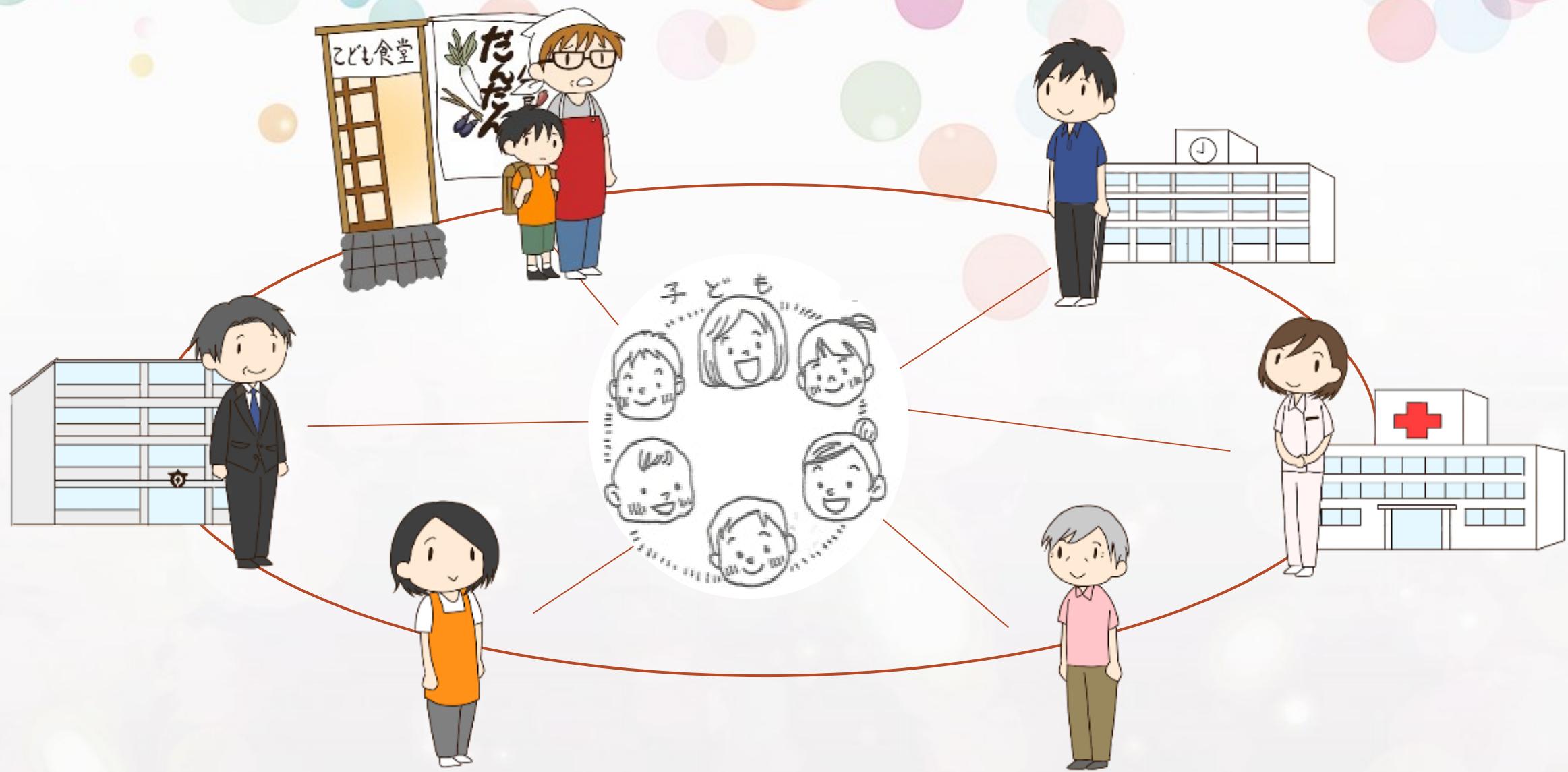
活動はこれからも
続きます！



その他

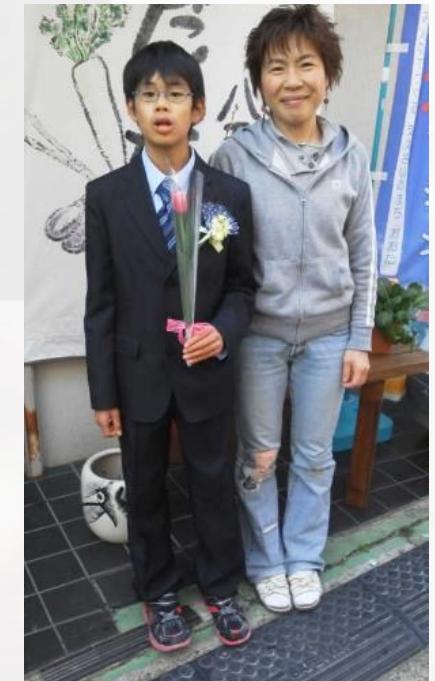
- ・ひとり親家庭へ、食材の おすそ分け
- ・子育て相談
- ・不登校児・生徒の相談
- ・引きこもりの家族の相談
- ・夫のDVについての相談
- ・お灸カフェ & 産前産後保健室 開催
- ・高齢者の相談

つながっていくこと、つなげていくこと





子ども達は、大人の事をよくみている。
そして、良く考えている。私たち大人は、子ども達の社会で起こっていることは、すべて大人の社会で起こっていることだと認識し、将来を担う子ども達にとって素敵な存在になれるように心がけることが大切なのではないだろうか。
互いの違いを認め合い、想像できる、考える人づくりを目指したい。



「食」という接着剤のおかげで、子どもとその保護者と地域の関わりが自然な形で、できるようになってきました。子どもは、社会の宝物。この世に生を受けた時から成人になるまで、そっと寄り添えるような地域でありたいと思います。民は、自分にできる小さなことを積み重ねていくこと、自治体は、民にはできない規模のそもそも部分を変え、安全安心な地域社会作りのための役割を担っていくことが大事なことだと思います。そのための協力体制を本気だ作る必要があると思っています。

ボランティアの範囲の中でできることを考えるために、活動者自身もここで一度立ち止まって考え、活動者同士が繋がっていくことが大切だと思っております。こども食堂は、「人っていいなー」と気づくためのたくさんあるツールの中の一つ。すべての子どもが安心して食べられる場所（家庭、学校などを含む）を作るのは、社会の責任として考えるべきことだと思います。



ご清聴
ありがとうございました

子ども達の日々の生活とのかかわりが、近所のおばちゃん、おじちゃんの役目だと思いますし、肩書のないおばちゃん、おじちゃんは、それくらいがちょうどいいのではないかと思います。無理のないところでの程よい距離感を保ちながら子ども達の成長と学びを応援し、子どもとその保護者を孤立させないことが大切だと思っています。